

藤田医科大学病院 看護部と共催で「看護師のための非言語コミュニケーション&目元メイク講座」を開催しました。（2026年9月18日）

患者が病気で病院に来るとき、色々な思いをお持ちです。患者の話しやすい環境を整え、話を聞き、受け止める医療職として、看護師はもっとも身近です。

患者が話しやすい看護師、言葉遣いだけでなく、表情、身だしなみ、姿勢、清潔感、適切な距離感といった非言語コミュニケーションで患者が変わってきます。

患者が安心して伝えやすい非言語コミュニケーションと目元メイクの実践講座に、約110名の看護師が参加しました。当日のゴールは「患者に安心を、自分に自信を。」



冒頭、主催する地域共生社会推進センター、堀江センター長より挨拶し、研修会の狙いを話しました。

センターと病院看護部が協力して進める「生成AIを活用した退院時指導書」についても紹介がありました。

患者が心を開き、話しやすい看護師の身だしなみと、患者が自らの体調や自己管理に理解を深める退院時指導書。

患者が積極的に医療に向き合い、退院後の在宅医療に向き合う。ともに患者の自立に重要との話でした。

藤田医科大学病院では、生成AIを活用して準備し、医療職が確認交付する退院時指導書を、拡大していく計画です。



1人目の講師は、一般社団法人 アピアランス・サポート東京で代表理事を務める村橋哲矢さん。

「清潔感」はプロ意識と安全性の伝達に、「控えめさ」は安心感と患者中心の医療に、

「表情・メイク」は親近感と共感性の表出に、「所作・姿勢」は落ち着きと尊厳の担保に、

患者が話しやすい環境に関係すると、非言語コミュニケーションの意義を説明いただきました。



2人目の講師は、国内唯一の(?)「目元プロデューサー」として日米において活躍する垣内綾子さん。

「まつげエクステサロンMANHATTAN」代表として日米10店舗を経営するとともに、各種メディアで活躍中。

初めての病院での講演話しながら講座の趣旨を理解され、マスク着用下でも患者に「優しさ」や「信頼」を伝える

目元の整え方と最新のメイク技術を教えていただきました。目元に自信を持ちたい看護師が積極的に参加しました。

その他、目元をやさしく動かし、すっきりした印象を実現する目元運動に、参加者一同参加しました。



会場は、入職数年以内の看護師の参加が多く、実践しやすいメイク技術に聞き入っていました。

村橋講師には、患者の精神的ケアや患者の自信を取り戻すアピアランスケアへの質問がなされ、美容の立場からがんなどの患者のアピアランスケアに取り組んできた経験の共有を受けていました。

講座の結びには藤田医科大学 看護部の河合佑亮看護副部長より両講師への謝意が述べられ、

賛辞を込めて花束が贈られました。参加者からのアンケート結果も大変好評でした。